

- 陸側遮水壁の維持管理については、測温管による地表・地中温度を参考に監視しておりますが、10月13日に、K排水路交差付近（下流部）の測温管150-7Sにて、地中に3m（地表下1.0m～4.0m付近）の区間で局所的に0℃を超過している状態が継続されていることを確認しました。
- 地下水位に変化は無く、内外水位差は確保されていることから、陸側遮水壁の遮水機能に影響はないと評価しております。

<[2021年10月28日 お知らせ済み](#)>

- 11月第1週にK排水路の補強箇所区間をドライアップし、目視による詳細調査、クラック等の補修を実施します。
- 11月2日～3日にかけて、K排水路補強部付近を調査した結果、補強部上流側にクラック有り（長さ：約1.0m、幅：5mm）および補強部下流側に地下水の流入を2箇所確認しました。
- 今後、測温管150-7S近傍の凍結管ライン外側および陸側遮水壁内側を掘削し、地盤の調査や同遮水壁が健全であることを確認してまいります。

<[2021年11月1,4日 お知らせ済み](#)>

- 11月2日～3日のK排水路の調査において確認された地下水の流入箇所のうちコンクリート剥離部は、過去の調査では確認されなかった新たな流入箇所であったことから、至近においてK排水路近傍の地盤の状態が変化している可能性が考えられるため、先にお知らせの通り、地盤の調査を行うこととしていました。
- 地盤の調査については、陸側遮水壁の地盤の状態を確認するために陸側遮水壁内側から行います。なお、陸側遮水壁内側は地下水位が低く、内側表層部は固結度が低い可能性があります。地盤の性状や地下水位の有無、または地中温度の計測等で評価してまいります※。その調査手法の妥当性を確認した後に、陸側遮水壁外側の調査を行う予定です。

※人力による掘削可能な深さで判定が困難な場合には、機械による調査を検討していきます。

- 本日から、測温管150-7S近傍の陸側遮水壁内側の地盤を掘削し、以下の通り調査を実施します。なお、日程は天候や現場状況により変更になる場合があります。
 - 11月10日・11日：掘削作業
 - 11月12日：地中温度の計測、地盤の状態の確認
- なお、K排水路は補強箇所区間のドライアップを継続しており、温度変化について引き続き監視してまいります。



陸側遮水壁内側掘削箇所
(地盤の状態を確認する)



土嚢にて降雨の流入を抑制

約1.0m~

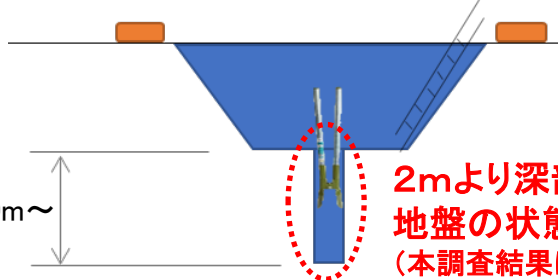


掘削範囲を試掘後、深さ1.0m以上盤下げ



深さ約2.0mより深部まで鉛直に掘削

約1.0m~



2mより深部の地中温度を測定・確認
地盤の状態を確認
(本調査結果により更なる深部の調査が必要な場合は別途検討)

参考) 測温管150-7 S及び周辺測温管の温度経時変化 (表層抜粋)

